

2 日間の東京研修で、私はとても貴重な経験を多くすることができました。東京での経験や、感じたことのうちの 4 つについて書きたいと思います。

一つ目は、笹川平和財団ディレクトフォースです。国際社会で活躍してきた方々に話を聞き、質問できました。普段関わることができないような方々の話を聞けたのでとても貴重な経験になりました。

最初に行われた基調講演では、義手の開発に携わる近藤玄太氏による話を聞くことができました。近藤さんは、ベンチャー企業を立ち上げ、従来の義手とは異なる「筋電義手」を開発されています。それは、従来の義手の、「なるべく人間の手に似せる」という目的ではなく、「より自分の思い通りに動く」事や「機械ならではのデザイン」、「義手ならではの機能」を追求した物です。そのような義手を開発した理由について、近藤さんは、幼少期を海外で過ごした事や左利きだったことから、ある意味で障がい者に近い経験をしたそうです。「なぜ改札の切符は右から入れなければならないのか」「なぜハサミは右利きだけが使いやすいように作られているのだろうか」など、疑問に思いながら育ったことが、障がい者のための新しい義手の開発に携わる一つのきっかけになったのではないかと近藤さんはおっしゃっていました。

その後行われたグループセッションでは、ロシアビジネスに携わってきた菅原信夫さんの話を聞きました。菅原さんは、「少なくとも大学院で修士を取り、海外留学を経験した人でないと国際社会で通用しない」とおっしゃっていました。また、自身の海外勤務の経験をもとに日本と諸外国の間での価値観の違いやその例を教えてください、とても勉強になりました。特に、外国の時計はアクセサリとしての要素が強く、日本の時計は精度が高いものを追求した物になっていることから、日本人の時間を守ろうとする意識の強さを説明していただいたことが印象に残っています。

つぎに、青年海外協力隊への参加経験を持ち、多くの国で支援活動を行った経験がある土居義範さんの話を聞きました。土居さんは現在、アジアの少子高齢化問題についての改善策を考え、発信する仕事をなさっています。例えば、高齢者の支援に社会保障費がかかる問題について、地域での高齢者の見守りを強化すべき、というようなことを学会などで提案されています。発展途上国の様子や、そこでの土居さん自身の経験を教えてくださいましたが、「どれだけ社会を良くするかが仕事のやりがい」「自分ができること、やりたいこと、やる価値のあること」であるかを考えて行動すべき、とおっしゃっていたことが特に印象的でした。また、高校でどのように生活すべきか質問すると、「勉強の習慣をつけることが大事」「物事を多様な視点から見るようにする」など、多くのアドバイスをいただきました。やはり、勉強の習慣は大事だと感じました。

最後には、基調講演をなさった近藤さんと話す機会があり、近藤さんが立ち上げたベン

チャー企業や、義手について詳しい話を聞きました。実際に本物の義手を触らせていただきましたが、比較的つかむ、離すという動作が簡単にでき、従来の義手より生活の中で役に立つだろうと感じました。

二つ目は、一日目の午後の企業大学訪問です。私たちの班は、順天堂大学医学部附属順天堂医院の天野篤院長を訪問しました。天野教授は、天皇陛下のバイパス手術を執刀したことで知られる有名な心臓外科医です。私が天野教授を訪問したいと思った理由は、私は将来医師になりたいと考えており、外科医として豊富な経験と実績を持っている天野教授に話を聞くことで医師という仕事について知りたいと考えたからです。私たちが大学病院に到着したとき、天野教授は手術中で、手術後の限られた時間を割いて面会してくださいました。到着してからしばらく経ち、天野教授と面会することができました。まず、医学部受験について質問すると、「机に向かってすぐに勉強に取りかかることがなにより大切」「体力をつけることで受験前に強くなる」「単純作業を大切にすると後で生きる」など、多くのアドバイスをいただきました。また、医師に必要なことについて質問すると、「英会話や中国語を勉強しておくべき」「同じ失敗を繰り返さない、失敗を分析することが大切」など、たくさんアドバイスをいただきました。中でも印象に残っている天野教授の言葉は、「医師になるなら、自己犠牲を覚悟すべき」ということばです。それまでの自分は、なんとなく医師になりたいと思っていたので、医師になるには自分の強い意志を持たなければならないと痛感させられました。これまでの生活や勉強への取り組みをじぶんで振り返り、医師になるという強い意志を持ってこれからの高校生活を送りたいとおもいました。

三つ目は、一日目の夜に行われた仙台二高 OBOG との座談会です。仙台二高から東京方面へ進学した大学生や、東京で就職した社会人の方々から、高校生活の過ごし方、大学入試、東京での生活で気づいた事などを話していただきました。OBOG と話して気付いた事は、全員共通してコミュニケーション能力が高く、話そうとしている事が自然に伝わってくると言うことです。自分も、人と会話する機会を意識して増やし、表現力を高めていくことが必要だと感じました。特に印象的だった話は、入試についての話です。ほとんどの OBOG は一年生の間は数英の基礎力を高めておく事が大切だとおっしゃっていました。また、科目選択については、「自分が勉強したい科目を選ぶことが重要だ」という言葉が印象的でした。他には、東京での一人暮らしでのユーモラスなエピソードや、具体的な参考書なども教えていただき、とても有意義な時間になりました。受験の体験などを聞いたことで改めて大学入試は遠いことではないと言うことを感じました。

四つ目は2日目に行われた東京大学見学です。FairWind という地方高校生を支援する団体の大学生に案内していただき、駒場キャンパスと本郷キャンパスを見学しました。午前中は駒場キャンパスを見学しました。東大には進学振り分け（進振り）制度があります。そ

これは、1・2年での成績をもとに3年生以降の学部・学科を決めるというもので、1・2年生の東大生が勉強する教養学部が駒場キャンパスにあります。二日目の朝、ホテルを出発して駒場キャンパス前につくと、FairWindの方々が迎えて下さり、東京大学見学が始まりました。駒場キャンパスの中でも特に印象的だった施設は図書館です。膨大な数の本が並んでおり、日本一の大学というだけの事はある、と感じました。また、自習スペースがたくさん確保されており、テスト前は自習スペースが満席になるほどの数の東大生が勉強しに来るという話を聞き、東大に入る人たちは勉強を苦としないからそれだけの学力を維持できるとわかった。キャンパス内の施設を一通り見学したあと、「進路を見つめ直す」というテーマで東大生と話し合うワークショップが行われました。自分の志望校や将来就きたい職業を発表し合うことで、自分が本当にやりたい事を見つめ直し、進路について考え直す良い機会になりました。

2日間の東京研修は自分の進路を見つめ直す良い機会になりました。日頃の生活を改めて、目標を高く持って進路実現に向けて努力したいです。